

1

新津事務局長の「耳より情報」

2022年度に向けて、JSTOの活動について

1. JSTOの事務局活動を一緒にやりませんか？

会員であればどなたでも運営を担うことができます。2022年度の事務局の募集をHPにUP。
JSTOのビジョンとミッションをご覧の上、ぜひ応募ください。

【申込】 <https://jsto.or.jp/news/info-220331/>

2. 観光庁の「看板商品創出事業」JSTO限定の説明会を実施(会員限定)

3月22日(火)に実施しました。詳細希望の方はメールにてお問い合わせください。

3. 「Welcome Back to Japan～origami map～プロジェクト」を実施中

インバウンド再開を待ちわびる人々たちを可視化し、世界の人たちに日本のいいところを知ってもらう新しい取り組みです。【公式サイト】 <https://origami-map.com/app/public/landing>



2

ミニセミナー

株式会社やまごころ

代表取締役

村山慶輔 氏

JSTO月例会 セミナー & 交流会 **3月17日(木) 開催**
会員限定

2022年のインバウンド動向

株式会社やまごころ
代表取締役
村山慶輔 氏

【2022年インバウンドの現状】

自治体では継続してインバウンドをしているところが1割、それ以外は二の足を踏んでいる、あるいはインバウンドまで考えが及んでいない状況。

(1) インバウンド回復時の懸念

多くのインバウンドに関する事業が、雇用・稼働時間・レンタカーなどのリソースを削減しているため、需要に追いつかなくなるのでは。

(2) 多言語の人材育成に備える

2年間、語学研修や教育がストップしているのは大きい。これからのインバウンド回復時にロケットスタートできるよう、よりコンパクトでわかりやすい教材などをいまから準備しておくことが大切。

(3) どの状況になってもインバウンドをやめない

この先の予測も難しいが、どの状況でもインバウンドを0にするのではなく、全体における割合を変えていくやり方にして、GOがでたタイミングで柔軟にスピーディーに対応できるようにしておく。

(4) 高付加価値化の重要性

高付加価値化＝富裕層ビジネスではない。少子高齢化により見込み客と働き手が減る日本では、「いいものを安く売る発想」から、「少ない人数で高い効果を発揮する発想」へと変換していくことが重要となってくる。

【参加者からの質問】

マイクロツーリズムの考えは今後も重要視されるか/インバウンド回復後にオーバーツーリズムが起こる可能性とそれに対する備えは？/地域における高付加価値化とは、具体的にどのような取り組みをしていけばよいのか？/お土産屋さんとしてこれから考えていくべきこと

3

JSTOからのお知らせ

(1) 研究助成プログラム 採択者を決定

2023年の協会設立10周年に向けた記念事業として、日本国際観光学会とショッピングツーリズムの振興、価値向上を目指した研究を進めることとし、この度、採択者を決定しました。2023年9月の成果発表に向けて、協会内のWGと共に研究を進めてまいります。 <https://jsto.or.jp/news/info-220302/>

【研究プラン】

地域資源を軸とした高価格帯におけるショッピングツーリズムに関する観光者行動の特性に関する研究

【研究者】

東洋大学国際観光学部 准教授 徳江順一郎 氏

(2) JSTOおもてなし事業者サービス

おもてなし事業者サービスに2つのプランをご用意しています。 <https://jsto.or.jp/omotenashi-member>

【スタンダードプラン】

JSN活用+セミナーなどのノウハウ+最新情報

【ライトプラン】

セミナーなどのノウハウ+最新情報

4

次回の月例会開催予告

JSTO月例会 セミナー & 交流会 **4月21日(木) 開催**
どなたでもOK!

**観光再開に向けた
2022年度 JSTOの活動方針**

ジャパンショッピングツーリズム協会
代表理事・事務局長 新津 研一

今回は、年度初めの恒例として当協会の新年度の活動と抱負についてお話いたします。参加希望の方は、以下のお申し込みフォームにご記入の上、送信いただけますようお願いいたします。

▼日時: 2022年4月21日(木)10:00～11:00

▼お申し込み <https://jsto.or.jp/news/info-220421/>

本件に関するお問い合わせ

JSTO情報戦略・広報部 池田大作 dikedad@jsto.or.jp